

# 先行事例調査結果

---

平成30年8月10日

## ○ヒアリング概要

事例調査に先立ち、2市の協力を受け事務局にて調査を実施した。

※協力自治体からの了承が得られた場合のみ、写真の掲載を行うこととした。

### 【A市】

ヒアリング実施集落：中山間地の観光地集落（A集落）、  
沿岸部の漁港集落（B集落）

ヒアリング回答者：A集落在住の市役所職員、  
B集落の状況を把握している市役所職員

### 【B市】

ヒアリング実施集落：中山間地の農業集落

ヒアリング回答者：元市役所職員、在住農家

## 【A市】

## ○ヒアリング概要(宅地)

A集落①: 観光地に存在する廃旅館。景観の悪化に伴う観光への影響が甚大。また、観光客や周辺住民への建物の倒壊(瓦等)による人的被害リスクも大。

B集落①: 一般集落内における風化の著しい廃屋。ゴミの投棄による住民生活環境の悪化や、周辺住民への建物の倒壊(瓦等)による人的被害リスクも大。

B集落②: 海岸沿いのレストランが経営悪化に伴い放置された事例。ビーチが近くにあるため観光への影響はあるが、周辺に住宅もなく観光客が歩くような場所でもないため、人的被害リスクは小。

## ○ヒアリング概要(農地・森林)

A集落②: 竹に侵食された雑木林。観光地に存在しており、景観の悪化に伴う観光への影響が甚大。また、獣害も増加しており、住民への人的被害リスクや、農作物被害も増加している。

B集落③: 住宅に隣接する荒廃農地。住民への大きな悪影響は見受けられない。周辺農地への影響の把握が必要。

## 【B市】

## ○ヒアリング概要(農地・森林)

写真1: 数十年前までは、斜面一面が農地であったが、一部農地には杉が植林され、一部農地はそのまま放置されたと考えられる。その結果、杉林と雑木林がモザイク状に分布している。

写真2-1: 数十年前(昭和50年頃)までは、綺麗な棚田の風景が維持されていた。

写真2-2: 約40年が経過し、棚田の場所が完全に雑木林化している。鳥獣害増加の要因となっている可能性があるが、鳥獣害対策のためだけに管理するのはコストに見合わないと考えられる。

写真3: 棚田百選にも入る棚田だが、多くの農地が自然に返りつつある。



写真1

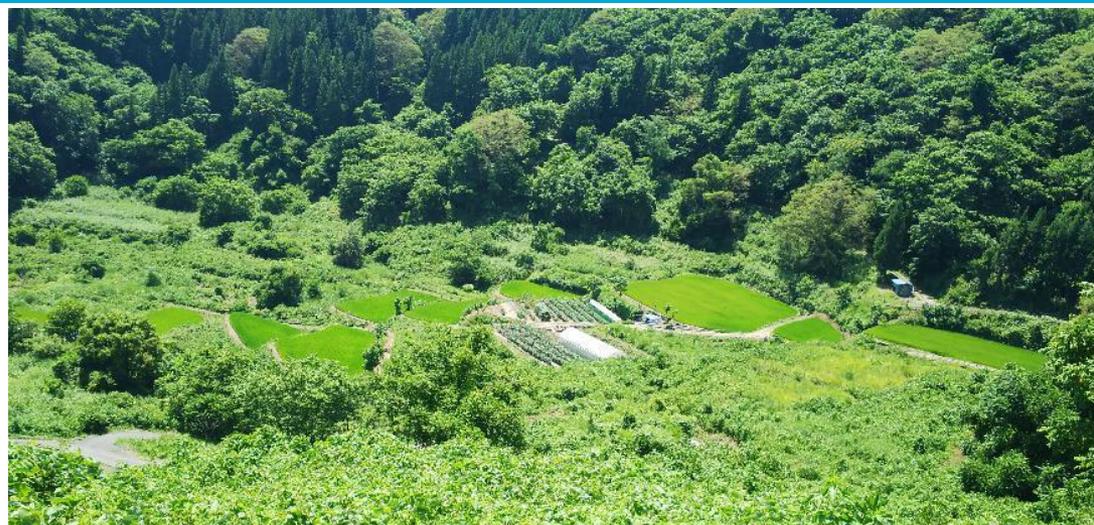


写真3

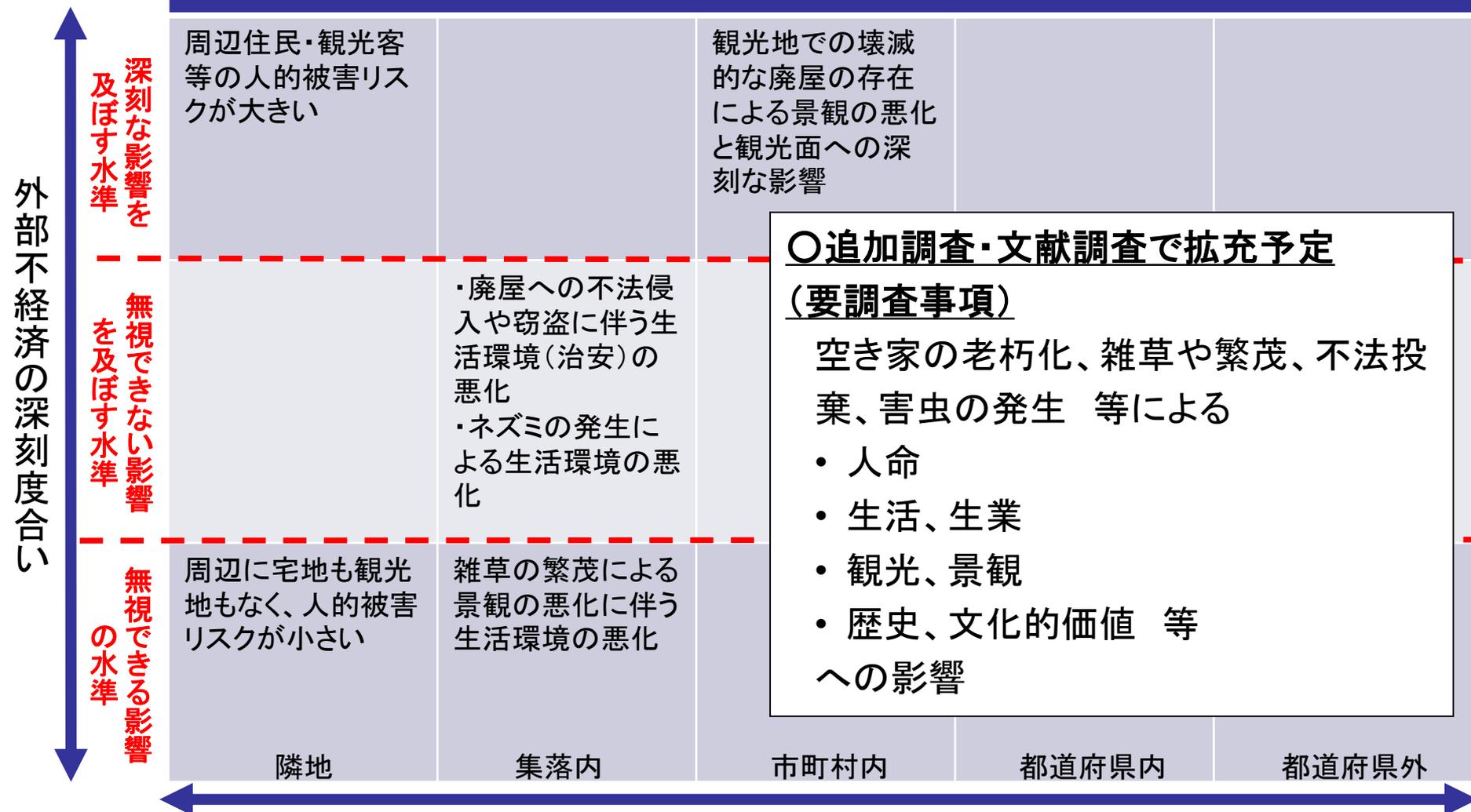


写真2-1(昭和50年頃)



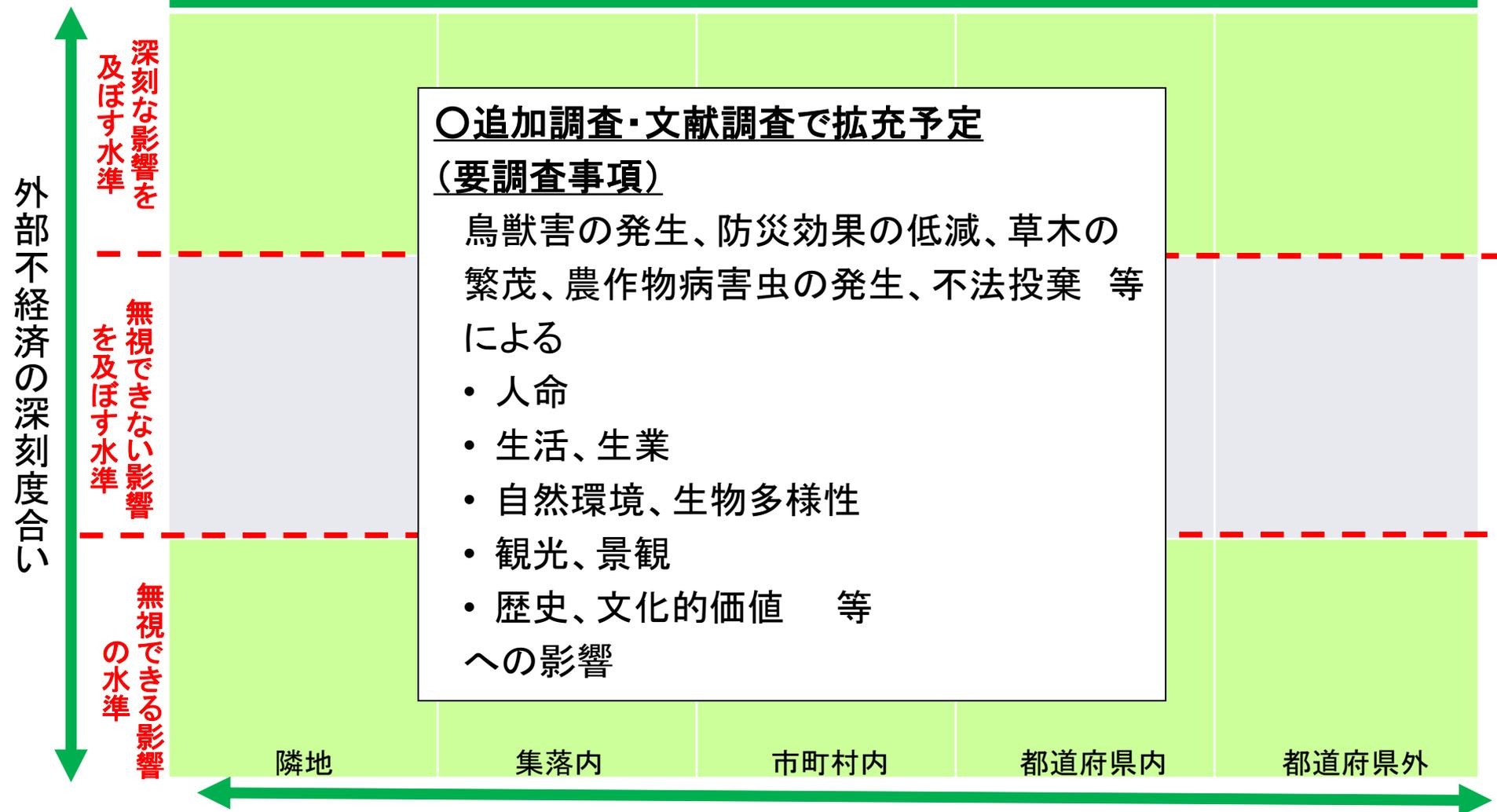
写真2-2(写真2-1と同一の場所の現在(平成30年)の風景)

## 外部不経済の深刻度と影響範囲(宅地)



外部不経済の及ぶ範囲の大きさ  
(地域・地点によって項目やその順番は異なる)

## 外部不経済の深刻度と影響範囲（農地）



外部不経済の及ぶ範囲の大きさ  
(地域・地点によって項目やその順番は異なる)

## 外部不経済の深刻度と影響範囲（森林）

